

街角スナップ



宮前区作成の公園体操マップに掲載されている46カ所のうちの一つ「宮崎台元気体操」。毎朝6時半から行われる健康増進が目的のラジオ体操以外にも、地域交流をきっかけとした仲間づくりの応援も行っている

01 / 宮崎台元気体操

活動場所 宮前区宮崎第一公園 活動時間 月曜～土曜日 6:30～6:40

毎朝、近所の人と顔を合わせて笑顔であいさつができる。安心して学校や会社まで元気に行ける。そんな当たり前にも思える風景を支えている人たちが川崎市内にはたくさんいます。朝の街角から、その様子を伝えます。

日曜日と雨天以外の毎日、暑い日も寒い日も朝6時半から宮崎第一公園でラジオ体操を行っている「宮崎台元気体操」の皆さん。「地域コミュニティづくりの一環として、仲間が各地で早朝公園体操を始めたいんです。我々もそのひとつで、みんな仲良く楽しく健康やかに」をテーマに15年以上続けてきました。

メンバーをまとめる奥山さんご夫婦を中心に仲間が集まり、現在は約30名が在籍。「最高齢は92歳の男性で、誕生日にはみんなでハッピーバースデーを歌ってお菓子をプレゼントしました。なかには公園体操がきっかけで体調が回復して、山登りができるほど元気になった人もいますよ」朝の挨拶を交わすだけに終わらず、親睦を深めるイベントをたびたび開催していることも皆さんの活力になっているそうです。「桜やバラの観賞会や、ポッチャで交流会を行うこともありますね。体操の後に近くのファミレスでモーニングを食べながら近況報告し合う時間も楽しいですよ」また、夏休み中の小学生が体操に参加することもあり、公園体操が世代を超えた交流の場にも。「ここで仲間が出来るよ、まだお互い元気だねって確認し合う機会が生まれて、それが安心にもつながる。初めてのメンバーにもみんなが声をかけるから、いつの間にか打ち解けて仲良くなるし、ここに来れば孤立や孤独を感じることはないと思いますよ」



世話人の奥山友保さん

最高齢は92歳！
公園体操で
健康増進と地域交流

23年間、この場所に立ち
子どもと地域の人たちの
毎日を見守り続ける

23年間、この場所に立ち

子どもと地域の人たちの

毎日を見守り続ける

で元気をもらえるんです。これが若さの秘訣かもしれませんね。長年続けていると、小学生だった子が高校、大学を卒業して大人になって『彼氏できたよ』って報告しに来たこともあります。『よかったじゃーん！』って喜び合うことができます。それもうれしいじゃないですか」

子どもたちを思う気持ちは、交通安全の見守りにとどまりません。交差点を通る子どもの顔を覚えていて、「今日は、あの子が登校してないな」とすぐに気が付くのです。休みがちな子どもを気にかけて、その家族から様子を聞くこともあるといいます。

「長期欠席している子が一番心配ですよ。お母さんを見かけたら『困ったことがあったら相談してよ』って声をかけるようにしています」子どもたちだけではなく、通勤中の会社員や保育園へ行く親子、ごみ出しをするご近所さん、みんなが鈴木さんにあいさつをします。そんな鈴木さんがいない日があると、街ではちょっとした騒ぎに。「1日でも休むと、翌日にはみんながどうした、どうしたって聞くんです。俺だって生身の人間だから休むこともあるよって思うけれど(笑)」

地域にとって、鈴木さんはかけがえのない存在になっているのです。

02 / 見守り隊 鈴木三男さん

活動場所 幸区下平間小学校付近の十字路 活動時間 平日 7:40～8:20



58歳で退職後、民生委員に。同じタイミングで孫が小学校へ入学したことが「見守り隊」に入るきっかけとなる。以来23年間、小学校へ通う児童を見守り続け、毎朝多くの子どもや通勤中の人たちとあいさつを交わす



地球をキレイにしたい！
身近な東田公園の清掃から
みんなでSDGsを発信

東田公園を拠点に、周辺のごみ拾いや植栽を行い街の美化活動に努める。
また、子どもたちとともにより良い街づくりの企画を計画、実行する

04 / まちびらき隊

活動場所 川崎市東田公園
活動時間 毎週日曜日 10:15～

川崎駅からほど近く、繁華街の一角にある東田公園。公園内のコミニティセンターへ合気道教室に通う生徒が中心となり、公園の美化活動を目的に結成したのが「まちびらき隊」です。

「公園に来ると、いつもたくさんのごみが落ちていたんです。ごみ拾いを始めたころは、朝だけのごみ袋2袋分がいつばいになるほどでした。清掃だけでなく、小学生以下の小さい子どもたちが描いた『川崎を綺麗にするポスター』を貼るなどの取り組みを続け、かなりごみが減ってきました」と語るのはまちびらき隊のメンバーの皆さん。

活動についてSNSなどで発信するうちに、運営メンバーも増え、今は中学1年生から大学3年生まで35人の若者が集まっています。また近隣の小学校や幼稚園に活動のポスターやチラシを配布。街をより良くするアイデアを小学生以下の子どものたちから募集し、それを実現するなど活動の輪も広がりました。

「例えば、本物のお店でお店屋さんっこをしたい、という小さい子たちの意見をもとに、商店街の方に協力をいただいて、実際の店舗でパン作りなどの体験を行いました。自分たちでできるんだらうか、というようなことも工夫をして実現できた時は大きな喜びが得られるんです」



まちびらき隊のメンバーの皆さん

最近特にSDGsに関わる企画に力を入れているそう。

「僕たち自身も勉強しているテーマですが、小さい子にもSDGsについて知ってもらいたいです。早いうちから知っておけば、もっと良い改善案や解決策が生まれるんじゃないかと思うんです。だから常に、小さい子に興味を持ってもらえるような企画を考えています」

そんな思いから令和6年には市内のSDGsに取り組む企業・団体の協力を得て、小学生を対象にクイズやゲームで楽しくSDGsを学べるツアーを実施。今後も続ける予定です。

「僕たちの目標は地球をキレイにすること。そのために、まず、この東田公園をSDGsであふれる公園にして、それを川崎市から日本、そして世界に広げていきたいと思っています」



会長の織野章さんとメンバーの皆さん

小田急多摩線はるひ野駅から徒歩15分の場所にある黒川よこみね緑地は、湧き水が出る水辺と多様な地形に恵まれ、多くの生き物が生息する里山です。保全活動を行っている「水辺のある里山を守る会」は、子どもを含む40家族が会員で、活動は16年目になるそうです。

「混み合った林の木や枝を切って斜面に陽射しを入れ、花が咲いて実のなる木や、コナラなどの落葉樹を植樹しています。1日に約300トンの湧き水が流れる水路に堰を造って水がよどまないようにするのも大事な活動ですね。キレイな水のおかげで夏にはホタルも見られるんですよ。住宅街のすぐ近くにホタルが生息するってなかなかないことだから、皆さん喜んでくださいますよ」と会長

里山の保全だけでなく、植物や生き物の観察、緑地の植物を素材にしたリース作りのワークショップなど、地域の小学生が対象の自然教室にも力を入れているのだとか。

「自然に関連した仕事をしていただけではないのですが、それでもこの活動に関わりたかったのは、少年時代に経験した自然体験をもう一度味わいたかったからかもしれない。駅の近くにこれほどの自然があるって大変貴重なこと。この辺りで育ったお子さんは幸せだと思います」

そんな黒川よこみね緑地の多くの生き物と自然をまとめた写真集が、まもなく完成するそうです。

「昆虫や魚、鳥、季節ごとに変わる山野草などを毎週のように写真に収めているメンバーがいて、それ自分たちだけで楽しむのもったいないねってことで写真集を作ろう、と。ここには56種類もの絶滅危惧種や希少種が生息しているので、写真集ではそういった珍しい植物や生き物も見られますよ」

16年かけてつないできた里山の尊さを次世代に残すために、「水辺のある里山を守る会」の皆さんは、これからもさまざまな活動を行っています。

03 / 水辺のある里山を守る会

活動場所 麻生区黒川よこみね緑地
活動時間 毎週水曜日 9:00～11:30、第2・4土曜日 9:30～12:00

多くの生き物と
豊かな自然を
守って増やす



月に6回を基本に、約40の家族会員が活動中。この日は平日のため参加者は少人数だったが、会長の織野さんを中心にベテランの会員が植樹を行っていた。また、貴重な生態系を守るため、池には外来種であるアメリカザリガニを捕獲する仕掛けも。これまでに10万匹を捕獲したそう





会長の伊藤菊代さん

「野川はあも」が活動する「南野川ふれあいの森」は、コナラやクヌギを中心とした落葉樹が生い茂る森です。現在は四季折々の野草が花を咲かせ、さまざまな虫や野鳥を観察することができ、活動を開始した平成16年頃の森は、荒れていたのだといいます。

「当時は私も含めて子育て世代の方が多く、自然と子どもも参加する活動になっていきました。子どもたちには、意味が分からなくてもいいから、何のためにするのかを説明して一緒に作業するんです。一緒に竹を伐採していくと、美しい森が姿を現しました」

立ち上げから20年余り、毎月森を訪れて手入れを続けています。「コロナ禍の時に人が来なくなると、しばらく手入れもできず、さらにナラ枯れが多く発生し、立ち入り禁止になってしまったんです。それでも許可を取って、できる限りのことをしました。改めて人が手入れする事で、森が維持できると実感しました。少しずつでも続けることが大切なんだって」

最近では、森を訪れる子どもが少なくなっているようですが、伊藤さんは子どもたちのためにも活動を続けています。

「鳥がトカゲを捕っていたり、巣箱の中でひながかえった痕跡があったり、そういう当たり前の命の循環を見られるんです。本で勉強するんじゃなくて、ここにきて遊んでいるだけで気づくことがたくさんあるはず。だから、もっと子どもの来られる場所にしていきたいという思いも持っています」

活動場所 宮前区南野川ふれあいの森
活動時間 毎月第1日曜日・第4土曜日 10:00~15:00

06 / 野川はあも

自然と触れ合い
守り育むことで
命の循環を知る



冬は落ち葉かき、春は草刈り...と、森の手入れをする「やま仕事」を行っている。メンバーは近隣の2歳~80歳と幅広い。この日は、鳥が快適に過ごせるように、巣箱の架け替えを行った



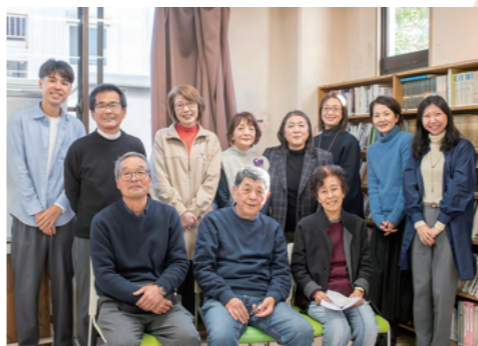
2~4人に対し1人の共同学習者と呼ばれるボランティアスタッフが対応。学校でもらったプリントを読んでほしいという相談に対応するなど、日常生活で日本語に困らないよう、寄り添いながら学ぶ

05 / 川崎市ふれあい館 識字学級

活動場所 川崎市川崎市ふれあい館 活動時間 毎週火曜日・金曜日 10:00~11:30

川崎市ふれあい館では昭和63年の開館以来、近隣に住む外国人の方が読み書きを学ぶ識字学級を続けてきました。もともとは在日韓国人の方に向けて始まりましたが現在はアメリカ、中国、ブラジル、ネパールなど15カ国以上の人が通っています。

「川崎市の識字学級のボランティアは『共同学習者』と呼んで、先生ではなくあくまで一緒に学習する立場です。私自身は大学で日本語教員をしていたんですけど、ここに来るとお互いに同じ日本に住んでいる人という感覚になります」



識字学級ボランティアメンバーとふれあい館職員

「共同学習者になったばかりの方のなかには、順序だてて『授業』をしたほうがいいのか、とおっしゃる方もいます。でも続けていくうちに、この自由に会話をするスタイルになじんでいくんです」

